

YU-AP推進室からのお知らせ

【学生スタッフ関係】

2015年9月2日(水)、3日(木)
学生FDサミット2015夏

学生FDサミット2015夏に参加し、本学学生発案のアイデアが優秀アクションプランに選出されました。

※学生FDサミット2015夏は、全国より64の国公私立大学から約500名の教職員が一堂に会する全国のかつ大規模な大会です。優秀アクションプランに選出されたことについては、2015年9月24日(木)に学生より学長に報告しました。



【YU-AP共催事業関係】

2015年10月3日(土)
第14回関西大学FDフォーラム・
大学教育学会課題研究合同企画イベント

関西大学で開催されたYU-AP共催のフォーラム(100名以上が参加)にてポスターセッション及びフィールド報告を行い、ループリック開発成果発信を行いました。



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学



山口大学・大学教育再生加速プログラム

YU-AP News

Yamaguchi University Acceleration Program News

Vol.2

2016年2月号

YU-AP News Vol.2

Yamaguchi University Acceleration Program



教育は加速する。

Contents

巻頭言 …… 2

AP事業実績の概要 …… 2

テーマⅠの実績 …… 4

テーマⅡの実績 …… 5

イベント紹介 …… 6

編集後記 …… 7



大学教育再生加速プログラム



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

巻頭言



山口大学 副学長
 瀨 厚

山口大学は、創基200周年を迎え、新学部を設置や全学的組織再編を鋭意進めています。なかでも2014年度には、文部科学省大学教育再生加速プログラムの採択を受けて、積極的に大学改革に取り組んでいるところです。山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)では、テーマI「アクティブ・ラーニング」、テーマII「学修成果の可視化」の取組みを通して、①多様な学生すべてに対する能力育成を最大限支援する、②本学の教育システムを学生および社会に質保証できる、③本事業成果を積極的に情報発信し、我が国の高等教育全体の発展に貢献することを目指しており、すでにいくつかの成果が挙がっています。

2015年度に導入されたALポイント認定制度では、アクティブ・ラーニングの度合いがシラバスに明示されることとなり、多くの共通教育科目で実施されています。ALポイント認定制度の導入により、アクティブ・ラーニングの度合いが高い授業ほど、学生の授業に対する理解度や満足度が高まることがデータから読み取ることができ、制度の効果検証が進められています。また、学修到達度調査及び学修行動調査、ルーブリック活用が進められており、直接評価・間接評価統合型学修成果可視化モデルの構築に取り組んでいます。ルーブリック活用については、正課教育のみならず、正課外教育においても開発・活用が試みられており、幅広い学びを通じた学生の適切な評価に活用されることが期待されます。こうした、改革推進の取組みにあわせて、ICTを活用した高度なアクティブ・ラーニングの推進や教学マネジメントを一層強化するため、教職員能力開発(FD・SD)の取組みも全学的に実施されているところです。

山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)は、事業開始後2年目にあたり、事業成果を積極的に情報発信するため、「YU-AP News Vol.2」を発売致します。今後とも、皆様からの深甚なる御支援を賜りますよう宜しくお願い致します。

AP事業 実績の概要



アクティブ・ラーニングの 組織的推進！ ～AL(アクティブ・ラーニング) ポイント認定制度導入～

正課及び正課外教育プログラムのアクティブ・ラーニング度を認定する仕組「ALポイント認定制度」が導入されました。ALポイント認定制度などによる、シラバスや学修成果の可視化を図るとともに、アクティブ・ラーニング対応教室の整備を進め、課題解決型授業を中心とした共通教育全体のアクティブ・ラーニング化を組織的に推進しています。

ALポイント認定制度は授業時間内で、該当するアクティブ・ラーニングの形態が、どの程度行われているかをポイント化して表示する制度です。ALポイント認定制度の導入により、履修登録画面やWEBシラバス画面にALポイントが表示され、単位数や授業計画などに加えて、学生はALポイントを参考にすることで主体的な学修のための履修が可能になります。また、具体的なアクティブ・ラーニング事例の報告やクリッカーやタブレット機器活用に関するFD・SDワークショップが学生も交えて開催されています。学生がワークショップに参加することで、ワークが活性化されるだけでなく、アクティブ・ラーニング実践を教員・職員・学生が体感することができ、より効果的なFD・SDになっています。ALの実践では、グループワークやクリッカーが活用されている授業が可能となっており、さらなるALの推進が期待されます。

また、山口大学は、国立大学法人等の2014年度に係る業務実績の評価で、アクティブ・ラーニングの組織的推進について高い評価を受けました。



アクティブ・ラーニング教室の充実化が進んでいます！



クリッカーやiPadを活用したアクティブ・ラーニングを展開しています！

山口大学生に 期待される 汎用的能力の 明確化

2015年5月に開催された教育研究評議会にて、本学の教育理念に基づき、山口大学生として卒業時に身に付けていることが期待される汎用的能力(「山口大学生に期待される汎用的能力」)の明確化について整理を行いました。

『山口大学教育理念』では、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の意義や、教養教育・専門教育において育成される汎用的能力を明示しています。今回、それらを右表のように整理することにより、山口大学生として卒業時に身に付けていることが期待される能力として明確化しました。これに基づいて、学生の汎用的能力に関する学修到達度を可視化し、学生が自らの学びを実感・省察し、次なる成長に結びつけることが可能となります。また、『山口大学教育理念』の整理は、大学全体としての教育目標を明確化するものであり、各学部・研究科のディプロマ・ポリシーの再構築等において参照すべき枠組として意味づけることができます。

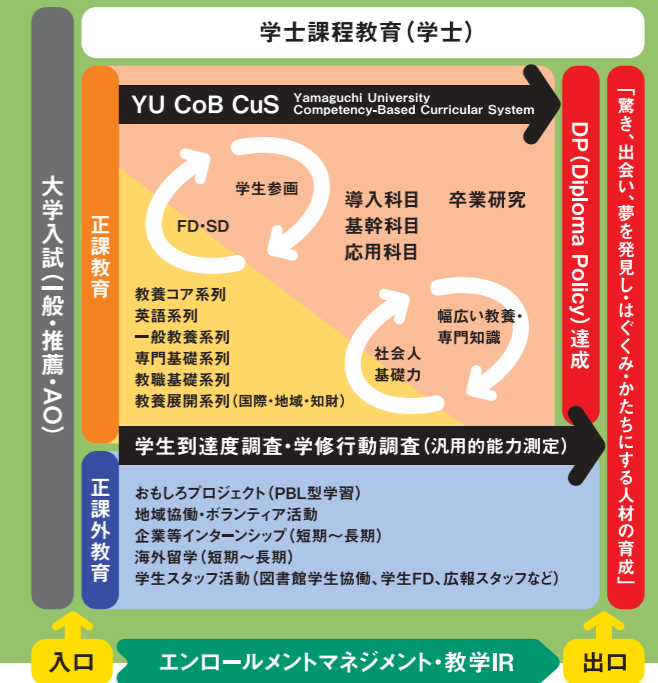
山口大学 学士課程教育の 質保証体系

山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)では、本学の教育理念に基づき、正課教育・正課外教育の双方を含めた幅広い学びによる学修成果を学修到達度調査(PROGテスト)や学修行動調査(JSAAP)などを通して、「山口大学生に期待される汎用的能力」の達成状況を把握し、学生の学修成果のアセスメントを行う方針です(右図)。

『山口大学教育理念』の整理(社会貢献の部分を除く)

「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の意義	教養教育において育成される力	専門教育において育成される力
【驚き】 世界や社会にいつも驚きを感じ、過去・現在・未来に問いを発し続けます。	【驚き】 驚きを大切にし、「自ら」が考え・判断・表現・発言する力を養います。	【チャレンジし、解決する力】 あらゆる問題や困難にチャレンジし、解決する力を養います。
【個性】 他人と競争し、うち負かすのではなく、自分を発見し、はぐくみ、世界でたったひとつの存在になります。	【個性】 個性を大切にし、心身ともに豊かな人間性と(美)を発見するところをはぐくみます。	【自分を活かす力】 専門性として知識や能力を身につけ、自分を活かす力を養います。
【出会い】 自分のうちに閉じこもらず、自分を越えてひとに出会い、出会いははぐくみ、つながりを築きます。	【出会いと交流】 出会いと交流の中で、歴史と伝統を重んじつつ、異文化を受け入れるところを養い、地域社会と国際社会への責任感や義務感を培います。	【専門分野を超えて考え行動する力】 専門性を活かし、さらに分野を超えて、人々の幸せや社会・環境全体のあるべき姿について、考え行動する力をはぐくみます。
【夢】 過去を受け継ぎ、現実を見ずえながら、夢を発見し、夢をはぐくみ、夢をかたちにします。	【夢】 夢を描き続け、自らが生涯を通じての(知)の探求者になる「礎」を築きます。	【世界にはばたいて活躍する力】 国を超えた多くの人々と出会い、世界にはばたいて活躍する力をはぐくみます。

山口大学学士課程教育の質保証体系



テーマIの実績

ALポイント認定制度の分析

— 共通教育科目のALポイント平均値・入力率などを中心に —

ALポイント認定制度が導入されアクティブ・ラーニングの可視化が進んでいます。共通教育科目では、8割以上の入力率となっており、ほとんどの科目でALポイントがシラバスに明示されています。また、共通教育科目のうちAL(アクティブ・ラーニング)科目として設定している各科目についてもその平均値と入力率が出ています。全体平均は4.28ポイントで、主なAL科目の平均値は6.44となっており、AL科目とその他の科目との間に明確な差異が生じていることがみられ、ALポイントに一定程度の妥当性があることが伺えます。また、講義科目に比べて実験・実習科目の平均値は高く、実験・実習科目に比べて語学科目の平均値が低く設定されていることなど、導入初年度としては、適正な結果が得られています。

主なAL科目のALポイントデータからは、ALポイントの平均値が高く設定されていることがわかります。共通教育科目においてAL科目として設定している「山口と世界」が6.13ポイント(平均値)、アクティブ・ラーニング手法の一つである反転授業を実践している「科学技術と社会」が6.48ポイント(平均値)とALポイントが高くなっています。専門教育科目においてもALポイントについて一定の入力率となっており、今後、一層の充実を目指していきます。

AL推進チーム(FDコーディネータ)の形成について

2015年度より、本格的にAL推進のためのAL推進チームが形成されました。従来の各学部FD担当をFDコーディネータとし、大学教育機構のFD担当と合わせて18名のFDコーディネータが活躍しています。

スチューデント・リーダー・プログラム(SLP)の取組

ALを前提とした新しい正課外教育としてSLPが進められており、これまでに7回行われています。テーマごとの学習会・勉強会の他に、第3回SLPでは学習相談会(ピア・サポート)が実践され、第4回SLPでは50名を超える参加者を集め本学総合図書館アカデミック・フォレストにて活気と熱気に溢れるキャリア学習会を開催しました。また、こうした活動内容を追手門学院大学や広島大学で発表する機会を得ており、第6回SLPでは学外発表の成果報告会を開催しました。



大学職員発キャリア学習会(正課外教育)

学外発表成果報告会

【アクティブ・ラーニング】Active Learning

本学におけるアクティブ・ラーニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図るため、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法(発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等のほか、教室内でのプレゼンテーション、グループワーク等)を指し、その対象として、授業科目による正課教育だけでなく、授業外学修である正課外教育を含む。なお、授業科目においては少なくとも1コマ以上行うものとする。」としています。

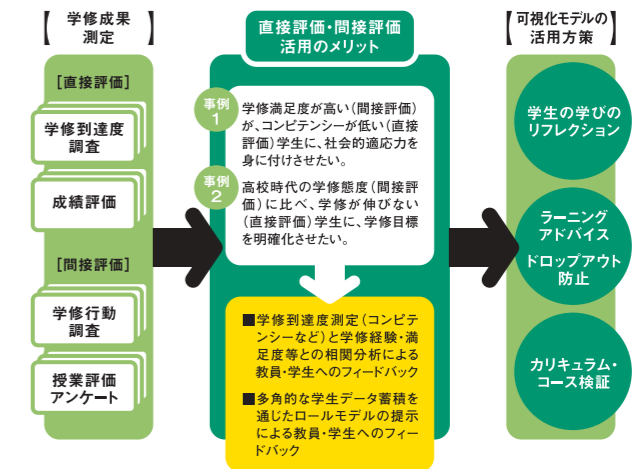
テーマIIの実績

学修到達度調査による「山口大学生に期待される汎用的能力」の可視化について

山口大学の教育理念には、【驚き】、【個性】、【出会い】、【夢】の4つの要素が示されています。これら4つの要素に基づき、教養教育と専門教育を通して、山口大学生として卒業時に身に付けていることが期待される汎用的能力を示しています。「山口大学生に期待される汎用的能力」を学修到達度調査により、【驚き】は考える力などの知識を活用して問題解決する「リテラシー」、【個性】は自分を活かす力などの「対自己基礎力(コンピテンシー)」、【出会い】は他人と交流する力などの「対人基礎力(コンピテンシー)」、【夢】は自分の夢をかたちにする力などの「対課題基礎力(コンピテンシー)」として学修成果の可視化を進めています。

学修到達度調査及び学修行動調査の実施状況について

右図は、本学における学修成果測定としての直接評価と間接評価を統合的に活用する方向性を示す図です。この学修成果可視化モデルの活用方策として、学生自身が自己の学びと成長を振り返り主体的な学修を確立することに資することが期待されています。また、可視化された学修成果をエビデンスとして、教員によるアドバイジングの更なる充実が求められています。2015年度から本格的に学修到達度調査及び学修行動調査が実施され、学生の学修成果が可視化され、調査結果の解説会を通して学生にフィードバックが行われています。



ルーブリックの開発と活用について

本学では、2013年度から大学教育学会課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」との連携により、初年次教育科目「山口と世界」における共通ルーブリックの開発及び活用を進めています(下表)。また、2015年9月に実施されたルーブリック作成・活用FD・SDワークショップでは、正課外教育におけるルーブリックを学生自身が作成するなどルーブリックの開発と活用が進められています。

規 準	内 容	レベル3	レベル2	レベル1	レベル0
発見する	山口に関連するテーマ設定、企画立案	山口に関連する課題に応じて、十分な下調べにもとづき、適切かつ独創的なテーマ設定、企画立案ができる	山口に関連する課題に応じて、下調べをした上で、テーマ設定ができる	山口に関連する課題に応じたテーマ設定ができる	レベル1に満たない
はぐくむ	テーマ設定、企画にもとづく情報収集およびコミュニケーション	課題、テーマ設定、企画に必要な情報を最大限に収集した上で、他者との協働作業を通して、学術的に適切な方法でプロダクツの作成につなげられる	課題、テーマ設定、企画に応じた情報収集ができ、それらを分析・考察した上で、他者との協働作業を通して、プロダクツの作成に発展させられる	課題、テーマ設定、企画に応じた情報収集ができ、他者とコミュニケーションを図りながら、プロダクツの作成につなげることができる	レベル1に満たない
かたちにする	編集、作品化、発表資料、レポート等、プロダクツの作成	収集した情報の分析・考察に基づき、独創性を備え、かつ、地域や国際的観点に立って脱域性を伴ったプロダクツを作成できる	収集した情報の分析・考察にもとづき、プロダクツを作成できる	期日までにプロダクツを完成することができる	レベル1に満たない
分かちあう	公開、プレゼンテーション、チームワーク	プロダクツを効果的に他者と共有するための戦略を立て、チームワークを発揮して展開し、認知・評価をえることができる	プロダクツに説得力をもたせるため、グループ内での役割分担を明確化して取り組むことができる	グループの活動に参加し、課題の求める形でプロダクツを公表できる	レベル1に満たない
振り返る	他者および自分(たち)の企画およびプロダクツの評価。今後の地域や国際的環境での(発見する)につながる	他者および自分(たち)の企画・活動・プロダクツを評価し、その評価をチームで共有し、地域や国際的観点に立った企画・実践にその評価を活かせる	他者および自分(たち)の企画・活動・プロダクツを評価し、その評価をチームで共有できる	他者および自分(たち)の企画・活動・プロダクツについてよかった点、悪かった点をあげられる	レベル1に満たない

【ルーブリック】Rubric

ルーブリックとは、米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成されます。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがあります(文科省2012年答申)。

Event

【イベント紹介】

アクティブ・ラーニングを推進するFD・SDワークショップを開催

大人教授業でのアクティブ・ラーニング及びクリッカー活用ワークショップ

2015年7月9日(木)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP) & KEEPAD JAPANアクティブ・ラーニング研究会 共同企画FD・SDワークショップ『アクティブ・ラーニングのコツを学び、活用しよう! 一 大人教授業、理系基礎科目を事例にして一』が、学内外から合計57名(学内教職員27名、学生14名、学外教職員16名)の参加者を集めて、林透 大学教育機構 大学教育センター准教授の総合司会のもと本学吉田キャンパス総合図書館アカデミック・フォレストにて開催されました。額縁厚 理事・副学長(教育学生担当)より開会の挨拶があった後、第一部 事例報告では、鍋山 祥子 経済学部 教授から大人教授業でのALについて、新田 英雄 東京学芸大学 教授よりクリッカー活用によるピア・インストラクションなどAL実践について、そして、山口 達也 KEEPAD JAPAN ICT&テクニカルサポートマネージャーより、クリッカーの活用方法について報告がありました。

ルーブリック作成・活用ワークショップ

2015年9月30日(水)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP) FD・SDワークショップ『授業科目シラバスから作成するルーブリックー観点別到達目標を活かして一』が、林透 大学教育機構 大学教育センター准教授の総合司会のもと、教員・学生の合同にてアクティブ・ラーニング教室(共通教育棟15番教室)を活用して開催されました。第一部での星野 晋 国際総合科学部 講師(大学教育センター主事)による、有効な授業設計のツールまたは、成績評価のツールとしてのルーブリックについての報告をイントロダクションとして、第二部では、レポート採点のためのルーブリックを作成し、実際に活用するワークショップを行いました。また、参加学生は正課外教育を通して育成する能力についてのルーブリックを作成し全体に共有しました。

タブレット機器活用ワークショップ

2015年10月29日(木)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP) & SCSK(株) 共同企画FD・SDワークショップ『アクティブ・ラーニングのコツを学び、活用しよう Part2ーアクティブ・ラーニング教室及びタブレット機器を中心に一』が、定員を大幅に超える49名(学内教職員:22名、学生:9名、学外教職員等:18名)の参加者を集めて、林透 大学教育機構 大学教育センター准教授の総合司会のもとアクティブ・ラーニング教室(共通教育棟15番教室)を活用して開催されました。朝日 孝尚 大学教育センター長より開会の挨拶があった後、鷹岡 亮 教育学部 教授より初等中等教育におけるタブレット機器の活用実践について、岩居 弘樹 大阪大学 全学教育推進機構 教授より、タブレット機器を活用したアクティブ・ラーニングについて報告があり、そして、SCSK(株)河内 崇氏よりBeeDanceを用いたタブレット機器活用のデモンストレーションが行われました。

共育ワークショップ2015

2015年9月28日(月)に、創基200周年記念・共育ワークショップ2015『みんなで山大的教育(共育)について語ろう!』が、学内の教員・職員・学生66名(一部学外学生含む)を集め、総合図書館アカデミック・フォレストにて開催されました。岡 正朗 学長より開会挨拶があり、会場一杯に集まった参加者に向けてエールを送り、教職学協働によるシラバス提案への期待を述べられました。また、林透 大学教育機構 大学教育センター准教授より、本ワークショップは教員・職員・学生による共育の場づくりを目的としている

こと、さらには、本学の教育理念である「発見しはぐみ・かたちにする 知の広場」に基づいたシラバス提案を狙いとしていることについて趣旨説明がありました。ワークショップでは、曾根 健吾 横浜国立大学 大学教育総合センター助手より、「大学での学びを変える、学生が変わる」と題して基調講演があり、学生時代を過ごした東洋大学での学修支援、現在の横浜国立大学での学生発案型授業を紹介しながら、学生と教

職員が協働して教育改善を行うことで大学教育を変えられると述べられました。その後、グループワークセッションに移り、林透 大学教育機構 大学教育センター准教授による「シラバス設計の事始め」と題したオリエンテーションを経て、グループワーク『あったらいいな、こんな授業』みんなでシラバスを作成してみよう!』が行われ、教員・職員・学生協働の10チームがシラバス作成とグラフィック・デザインに挑戦しました。



YU-AP事業の成果発表実績など

2015年11月28日(土)・29日(日)に、大学教育学会2015年度課題研究集会『「連携」から広がる新たな時代の大学教育』が岩手医科大学、岩手大学で開催され、28日(土)のポスターセッションにて「アクティブ・ラーニング(AL)の可視化に関する考察(1)~ALポイント認定制度の設計と運用を通して~」と題して発表を行いました。さらに、イギリスの権威ある学会 Society for Research into Higher Education(SRHE)のNewer Researchers Conference 2015では、「A good practice of higher

education rebuilding program: active learning and visualization of learning outcomes in Japanese University.」と題して、日本の大学教育改革とその実践事例としての山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)を紹介し、成果についてのポスター発表を行いました。今後とも、国内外の学会等での成果発表、意見交換を行うとともに、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)主催のフォーラム等の開催を通じて、積極的に情報を発信していきます。



山口大学・大学コンソーシアム やまぐちSDセミナー2015

2015年12月18日(金)に、山口大学・大学コンソーシアムやまぐちSDセミナー2015『大学職員の専門性について考えてみよう!』が、学内外から第一部129名、第二部90名を集めて盛大に開催されました。第一部では吉武 博通 筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授より、「大学職員に期待される専門性とは」と題した基調講演が行われました。続いて、山口県立大学 経営企

画部 財務グループ 中村 早苗氏より「教育・研究支援に発揮できる大学職員の専門性」、徳山大学 学生支援センター入試室 中嶋 智久氏より「ダブルアドバイザー制度に発揮できる大学職員の専門性」と題してショートトークがありました。第二部では、大学職員の専門性をテーマにマインドマップを活用して、課題解決について議論し全体でアイデア共有を行いました。



Editorial Note

【編集後記】

山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)は、アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化の促進、そして、教員・職員・学生が協働するFD・SDワークショップを展開しています。最近では、YU-AP推進室からクリッカーやタブレット機器、アクティブ・ラーニング教室の利用促進について発信しています。2015年度後期の授業からの利用事例が出てきており、クリッカーやタブレット機器を活用した教員・学生双方での意思疎通を通じた授業は、まさにアクティブ・ラーニングのグッド・プラクティスであるといえるでしょう。また、学生間の意見交換を容易にする学修環境として、可動式の机・椅子が導入されているアクティブ・ラーニング教室が有効に活用されています。



今後の山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)が発信する情報やこれまでの取り組みについては、本事業ホームページにて積極的に発信されています。YU-APに関する最新情報はホームページを是非ご覧ください。URL: <http://www.yuap.oue.yamaguchi-u.ac.jp/>

Staff

【YU-AP 事業推進スタッフ】

- 林透 (大学教育機構大学教育センター 准教授)
- 河島 広幸 (大学教育機構大学教育センター 助教(特命))
- 河口 美由紀 (学生支援部教育支援課 事務補佐員)
- 森重 孝代 (学生支援部教育支援課 事務補佐員)
- 古谷 涼 (人文学部3年)
- 福屋 里紗 (教育学部4年)
- 江角 寛 (経済学部2年)
- 奥田 真也 (経済学部3年)
- 西尾 翔太 (経済学部3年)
- 藤坂 勇汰 (経済学部3年)
- 朴 玲 (経済学部3年)
- 満邺 千晶 (経済学部3年)
- 井本 圭祐 (理学部2年)
- 杉元 茜 (理学部4年)
- 朴 珉嬌 (理学部4年)
- 古谷 晃一 (農学部3年)
- 須藤 亜莉 (国際総合科学部1年)
- 川井 希恵 (国際総合科学部1年)